



阿佐ヶ谷教会

信友会 会報

11月例会報告（2017年11月26日開催）

聖書研究 旧約聖書が指し示すクリスマス

2017年のクリスマスをむかえました。「今日ダビデのまちで、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」（ルカによる福音書2：11）ベツレヘムで幼子が誕生する前から私たち人間は善良と罪人を併せ持って生きてきました。クリスマス物語ではそういう私たちに救い主があらわれ、素敵な贈り物を与え、罪をも許してくださいました。

私たちはこのクリスマスの出来事を覚えて、この日だけでなく、これから始まる新しい日々のかを主イエスキリストと共に勇気を持って歩んでいきたいものです。（Y.O）

「旧約聖書が指し示すクリスマス」

古屋治雄牧師

信友会6月例会においては、「イエス・キリストと旧約聖書の預言の関係」の題で、新約聖書がイエスの誕生、十字架と復活、召天等を説明するために引用された旧約聖書の言葉を学び、その旧約聖書の言葉がその時代には何を指し示していたかについて学びました。

今回はアドベント、クリスマスを迎える季節ですので、イエスの到来を指し示すクリスマス物語の旧約聖書の引用に限ってお話します。

4 福音書の旧約聖書の預言

最初に、マタイ福音書では、ヨセフが思い惑いながらマリアの懐妊を受け入れた時に聞いた、第1章23節「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。この名は『神は我らと共におられる』という意味である」。この預言はイザヤ書7章14節の引用、「見よ、おとめが身ごもって、男の子を産みその名をインマヌエルと呼ぶ・・・」です。マタイ2章6節には、「ユダの地ベツレヘムよ、お前はユダの指導者の中で決して小さいものではない・・・」は、ミカ書5章1節に、「エフラタのベツレヘムよ、お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのためにイスラエルを治める者が出る。彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる」から引用されています。

また、ヨセフの家族がエジプトから戻るきっかけとなる2章20節の「起きて子供とその母を連れて





イスラエルの地に行きなさい。この子を狙っていた者どもは皆死んでしまった」。これは、ホセア記 11 章 1 節の、「まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。エジプトから彼を呼び出し、我が子とした。」からの引用です。ホセア書はイスラエルの背

きに対する罰をあげながら、そんな中でも罰を越えて神の愛を示しているのです。

マタイ 4 章 16 節の、「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰の地に住む者に光が差し込んだ。」は、多くの皆さんが暗唱できる詩編 23 編 4 節の、「死の陰の谷を行くときもわたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいて下さる」から引用されています。

ルカ福音書では、マリアの賛歌とザカリアの預言についてふれます。最初にマリアの賛歌を取り上げますが、受胎告知を受けたマリアは叔母のエリザベトを訪問してエリザベトから懐妊の祝福を受けます。ルカ福音書 1 章 46 節～55 節の「マリアの賛歌」が歌われます。この歌は、サムエル記上 2 章 1～10 節にある「ハンナの祈り」に似ています。エルカナの妻ハンナには長い間子がなかったがハンナの熱い祈りが叶えられて男の子が与えられます。ハンナはその子の名をサムエル（その名は神）と名付けて 3 歳まで育ててから主にささげたとき祈ったのが「ハンナの祈り」です。マリア賛歌の構成がこの祈りをなぞっています。ルカ 1 章 51 節で、「主はその腕で力を振るい、思い上がった者をうち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。」とあります。ハンナの祈りで、サムエル記上 2 章 4 節に同様の祈りがあります。

ザカリアの預言は、ルカ福音書 1 章 67～79 節にあります。長い間子が生まれなかったエリザベトが男の子を産み、父ザカリアの名を継ぐのではなく「ヨハネ」と名付けた時、ザカリアが預言したものです。ザカリアは、預言を通して神を称え、昔の預言者が語った通り神の救いの日が近いこと、そしてヨハネが救い主の先導者であることにふれます。76 節に主の先導者となる聖句、「幼子よ、お前はいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、その道を整え、主の民に罪の赦しによる救いを知らせるからである」。これはマラキ書 3 章 1 節に、「見よ、私たちは使者を送る。彼はわが前に道を備える。あなたたちが待望している主は突如、その聖所に来られる。あなたたちが喜びとしている契約の使者、見よ、彼が来る、と万軍の主は言われる。」を引用しています。79 節では、「暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」は、イザヤ書 9 章 1 節「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。」からの引用です。

マルコ福音書は、イザヤの預言の引用から始まります。2 節に「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、あなたの道を準備させよう。荒れ野で叫ぶ者の声がある。主の道を整えまっすぐにせよ」。この預言の成就として先導者の洗礼者ヨハネが登場します。これはイザヤ書 40 章 3 節からの引用です。

ヨハネ福音書の 1 章 1～3 節の「初めに言があった。言は神と共にあった、言は初めに神と共にあった。万物は言によって成った。言葉によらずに成ったのは何一つなかった。」は、創世記 1 章の「光あれ、水の中に大空あれ。水と水を分けよ」と言うように天地創造と同様の書き出しに倣っていると思われます。

旧約聖書での預言の意味するもの

新約聖書に引用されている救世主が到来する平和の預言は、旧約聖書ではどのようなスタンスで扱われているのでしょうか。引用された旧約聖書は、終末到来を示す箇所がほとんどです。主イエスが登場されたことが、神の救いの歴史の中で普通の歴史の一コマとしてではなく、決定的な終末を示す歴史として受け止められています。多くの預言書からの引用はすべて終末的視点に立ち、詩編など預言書以外の引用も同様です。

マタイ福音書の1章23節の引用であるイザヤ書7章の14節に続く16節では、「この子が災いを退け、幸いを選ぶことを知る前にあなたの恐れる二人の王の領土は必ず捨てられる」とアッシリア王による裁きが予告されています。旧約聖書の最後の書、マラキ書3章1～3節には厳しい裁きがあり、先に掲げた1節に続き、2節「だ



が、彼の来る日に誰が身を支えうるか。彼の現れるとき、誰が耐えうるか。彼は精錬する者の火、洗う者の灰汁のようだ。彼は精錬する者。銀を清める者として座しレビの子らを清め金や銀のように彼らの汚れを除く。彼らが主に捧げものを正しくささげる者となるためである。」ここではイザヤ書よりはっきりと終末を表現しています。最終的に使者が来て厳しい審判が下されるのです。

マタイ2章6節の「ユダの地ベツレヘムよ・・・」はミカ書5章1節からの引用です。

ここでも2節で「まことに、主は彼らを捨ておかれる、産婦が子を産むときまで。そのとき、彼の残りの者はイスラエルの子らのもとに帰ってくる。彼は立って群れを養う主の力、神である主の御名の威厳をもって、彼らは安らかに住まう。いまや、彼は大いなる者となり、その力は地の果てまで及ぶからだ。」預言者はアッシリアの猛威が迫る終末的危機の中で、それを乗り越えて神が減ぼされるべき民を救って下さると預言しているのです。新約聖書の引用では、「小さいものではない」ですが、ミカ書では「小さい者」と書かれています。聖書に手を入れつつイエスの到来を平和の主として伝えようとしているのでしょう。

クリスマス物語が伝えるもの

クリスマス物語を伝えているマタイとルカに絞ってしてみると、主イエスの誕生は、ダビデ王以降、イスラエルを治める王＝メシアの到来の実現としてとらえられています。神は神の民イスラエルに対する契約として覚えて下さり、実現して下さいました。人間の間での双務的な契約ではなく、神が一貫した契約として自らに課して一方的に恩寵を与えて下さった。

古代オリエントでは神＝王ですが、イスラエルでは王は神ではなく、地上で責任をもって役割を担う者です。歴代の王たちは危機の中で右往左往したり過ちを犯すので、危機の時代の預言者が警告してきました。しかしサムエル記上2章1～10節の「ハンナの祈り」では、新しい神の支配によって地上の権力に逆

転が起きました。4節「勇士の弓は折られるが、よろめく者は力を帯びる。食べ飽きている者はパンのために雇われ、飢えている者は再び飢えることはない」。このように弱肉強食を逆転させるのが最終的な神の治め方なのです。

強大な権力はクリスマス物語にもあり、ヘロデの疑心暗鬼に翻弄されエジプトに退避した聖家族。皇帝アウグストの強権による人口調査は、妊婦マリアに危険な長旅を強います。

ここで本当の王は誰かが問われます。イザヤ 53 章の「苦難の僕」は、十字架と復活のイエスから弟子たちが本当の王の姿を見出しました。ユダヤ教にとって「苦難の僕」は旧約聖書全体の中の理解でメシアの到来に到底結び着きませんでした。

クリスマス物語が、心温まる平和の物語であるだけでなく、十字架の苦難を乗り越えて復活された主イエスこそが本当の王であり救い主であることに気づかされたいものです。

(文責：玉澤武之)